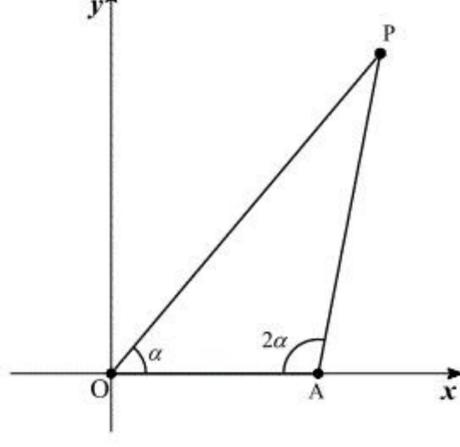


【解答】

(1)	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ
	9	-1	3	-3	3	-1	3
(2)	ク	ケ	コ	サ			
	1	2	1	2			
(3)	シ	ス					
	1	2					

【解説】

(1)



点Pの座標を (X, Y) とおくと、その y 座標が正であることから $Y > 0$ である。よって、上の図のように $\angle POA = \alpha$ ($0 \leq \alpha \leq \pi$)とおくと、 $\angle PAO = 2\angle POA = 2\alpha$ である。このとき、 $\triangle AOP$ について、その内角の和は π だから、

$$\angle PAO + \angle POA + \angle APO = \pi$$

$$\Rightarrow \alpha + 2\alpha < \pi \quad (\because \angle APO > 0)$$

$$\Leftrightarrow \alpha < \frac{\pi}{3}$$

である。これと $Y > 0$ より、点Pは第一象限にある。よって、 $X > 0$ である。

[1] $X \neq 1$ のときこれと $X > 0$ より、

$$\tan \alpha = \tan \angle POA = \frac{Y}{X}$$

$$\tan 2\alpha = \tan \angle PAO = \frac{Y}{1-X}$$

である。ここで、 $\tan^2 \alpha = 1$ すなわち $\tan \alpha = \pm 1$ と仮定すると、 $0 \leq \alpha < \frac{\pi}{3}$ より、 $\alpha = \frac{\pi}{4}$ と

なるから、 $2\alpha = \frac{\pi}{2}$ となり、 $\tan 2\alpha$ は定義されない。これは、 $X \neq 1$ より、 $\tan 2\alpha = \frac{Y}{1-X}$ と

なることと矛盾する。よって、 $\tan^2 \alpha \neq 1$ となる。したがって、2倍角の公式より、

$$\tan 2\alpha = \frac{2 \tan \alpha}{1 - \tan^2 \alpha}$$

$$\Leftrightarrow \tan 2\alpha (1 - \tan^2 \alpha) = 2 \tan \alpha$$

$$\Leftrightarrow \frac{Y}{1-X} \left\{ 1 - \left(\frac{Y}{X} \right)^2 \right\} = 2 \cdot \frac{Y}{X}$$

$$\Leftrightarrow \frac{Y}{1-X} \cdot \frac{X^2 - Y^2}{X^2} = \frac{2Y}{X} \quad (\because Y \neq 0)$$

$$\Leftrightarrow X^2 - Y^2 = 2X(1-X)$$

$$\Leftrightarrow 3X^2 - 2X - Y^2 = 0 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$\Leftrightarrow 3 \left(X - \frac{1}{3} \right)^2 - Y^2 = \frac{1}{3}$$

$$\Leftrightarrow 9 \left(X - \frac{1}{3} \right)^2 - 3Y^2 = 1 \quad \dots \textcircled{2}$$

となる。よって、点Pのとり得る範囲は $9 \left(X - \frac{1}{3} \right)^2 - 3Y^2 = 1$ の $0 < X < 1, 1 < X$ の部分である。

る。

[2] $X = 1$ のとき

$\angle PAO = \frac{\pi}{2}$ より、 $\angle POA = \frac{1}{2} \angle PAO = \frac{\pi}{4}$ である。よって、 $\triangle OAP$ は $\angle PAO = \frac{\pi}{2}$ 、 $OA = 1$ の

直角二等辺三角形である。よって、 $(X, Y) = (1, 1)$ であり、これは②を満たす。

以上[1],[2]より、点Pの軌跡は曲線

$$9 \left(x + \frac{-1}{3} \right)^2 + (-3)y^2 = 1$$

の第一象限の部分と一致する。また、これは双曲線

$$9x^2 - 3y^2 = 1$$

$$\Leftrightarrow \frac{x^2}{\left(\frac{1}{3} \right)^2} - \frac{y^2}{\left(\frac{1}{\sqrt{3}} \right)^2} = 1$$

の第一象限の部分をもつから、曲線 $9 \left(x - \frac{1}{3} \right)^2 - 3y^2 = 1$ の第一象限の部分は、直線 $y = \sqrt{3}x$ を x 軸方向

に $+\frac{1}{3}$ だけ平行移動したものである。ところで、双曲線

$9x^2 - 3y^2 = 1$ は直線

$$\frac{y}{\left(\frac{1}{\sqrt{3}} \right)} = \pm \frac{x}{\left(\frac{1}{3} \right)}$$

$$\Leftrightarrow y = \pm \sqrt{3}x$$

を漸近線にもつから、曲線 $9 \left(x - \frac{1}{3} \right)^2 - 3y^2 = 1$ の第一象限の部分は、直線 $y = \sqrt{3}x$ を x 軸方向

に $+\frac{1}{3}$ だけ平行移動した直線

$$y = \sqrt{3} \left(x - \frac{1}{3} \right) = \sqrt{3} \left(x + \frac{-1}{3} \right)$$

を漸近線にもつ。

(2)

線分PH, APの長さは、

$$PH = |X - k|$$

$$AP = \sqrt{(X-1)^2 + Y^2}$$

である。 $\frac{PH}{AP}$ が一定の値であるとき、 $PH > 0, AP > 0$ よりある正の実数 c を用いて、

$$\frac{PH}{AP} = c$$

と表せる。このとき、

$$\frac{PH}{AP} = c$$

$$\Leftrightarrow PH^2 = c^2 AP^2$$

$$\Leftrightarrow (X-k)^2 = c^2 \{ (X-1)^2 + Y^2 \}$$

となる。ここで①より X, Y は $Y^2 = 3X^2 - 2X$ を満たすので、

$$(X-k)^2 = c^2 \{ (X-1)^2 + 3X^2 - 2X \}$$

$$\Leftrightarrow (X-k)^2 = c^2 (4X^2 - 4X + 1)$$

$$\Leftrightarrow (X-k)^2 = 4c^2 \left(X - \frac{1}{2} \right)^2 \quad \dots \textcircled{3}$$

となる。題意より $\frac{PH}{AP} = c$ は常に成り立つので、③は恒等式である。両辺を比較して

$$\begin{cases} 4c^2 = 1 \\ k = \frac{1}{2} \end{cases} \Leftrightarrow \begin{cases} c = \frac{1}{2} \quad (\because c > 0) \\ k = \frac{1}{2} \end{cases}$$

を得る。以上より、条件を満たすとき $k = \frac{1}{2}, \frac{PH}{AP} = c = \frac{1}{2}$ である。

(3)

$\angle PAO = \theta$ のとき、 $\overline{AP} = (X-1, Y), \overline{AO} = (-1, 0)$ より、

$$\cos \angle PAO = \frac{\overline{AP} \cdot \overline{AO}}{|\overline{AP}| \cdot |\overline{AO}|}$$

$$\Leftrightarrow \cos \theta = \frac{-(X-1)}{AP}$$

$$\Leftrightarrow X = 1 - AP \cos \theta$$

となる。また、①より $X > 0, Y > 0$ に対して、

$$9 \left(X - \frac{1}{3} \right)^2 = 1 + 3Y^2 > 1$$

$$\Leftrightarrow 3 \left| X - \frac{1}{3} \right| > 1$$

$$\Leftrightarrow X > \frac{2}{3} \quad (\because X > 0)$$

であるから、これと $k = \frac{1}{2}$ より、 $X > k$ となる。よって、

$$PH = X - \frac{1}{2} = 1 - AP \cos \theta - \frac{1}{2} = \frac{1}{2} - AP \cos \theta$$

となる。したがって、

$$\frac{PH}{AP} = \frac{1}{2}$$

$$\Leftrightarrow AP = 2PH$$

$$\Leftrightarrow AP = 2 \left(\frac{1}{2} - AP \cos \theta \right)$$

$$\Leftrightarrow (1 + 2 \cos \theta) AP = 1$$

$$\therefore AP = \frac{1}{1 + 2 \cos \theta}$$

を得る。

【解答】

(1)	セ	ソ			
	3	4			
(2)	タ	チ	ツ	テ	ト
	1	3	-1	2	2
(3)	ナ	ニ			
	5	7			
(4)	ヌ	ネ			
	5	89			

【解説】

(1)

2日目にA定食が提供される確率は $\frac{1}{2}$ であり、このとき $\frac{1}{2}$ の確率で3日目にA定食が提供される。また2日目にB定食が提供される確率は $\frac{1}{2}$ であり、このとき3日目に必ずA定食が提供される。よって、求める確率は、

$$\frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot 1 = \frac{3}{4}$$

である。

(2)

n 日目にA定食が提供される確率を P_n とする。 $n \geq 2$ において、 $(n-1)$ 日目にA定食が提供される確率は P_{n-1} であり、このとき $\frac{1}{2}$ の確率で n 日目にA定食が提供される。また $(n-1)$ 日目にB定食が提供される確率は $1-P_{n-1}$ であり、このとき n 日目に必ずA定食が提供される。よって、

$$\begin{aligned} P_n &= \frac{1}{2}P_{n-1} + (1-P_{n-1}) \\ \Leftrightarrow P_n - \frac{2}{3} &= -\frac{1}{2}\left(P_{n-1} - \frac{2}{3}\right) \end{aligned}$$

であるから、 $P_1=1$ より、

$$\begin{aligned} P_n - \frac{2}{3} &= \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-1} \left(P_1 - \frac{2}{3}\right) \\ \Leftrightarrow P_n - \frac{2}{3} &= \frac{1}{3} \cdot \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-1} \\ \therefore P_n &= \frac{1}{3} \left\{ \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-1} + 2 \right\} \end{aligned}$$

である。

(3)

事象 X, Y を

$$\begin{cases} X: \text{「6日目にA定食が提供される」} \\ Y: \text{「3日目にA定食が提供される」} \end{cases}$$

と定義する。(2)より事象 X の確率は、

$$P(X) = P_6 = \frac{21}{32}$$

である。また、事象 $(X \cap Y)$ は3日目にA定食が提供される事象である。これは

「3日目にA定食が提供される」

かつ「3日目にA定食が提供される条件の下で、6日目にA定食が提供される」

事象と同値である。ここで、1日目に必ずA定食が提供されることに注意すると、任意の自然数 m について、「 n 日目にA定食が提供される」確率と、「 m 日目にA定食が提供される条件の下で、 $(m+n-1)$ 日目にA定食が提供される」確率は等しくなる。したがって、事象 $(X \cap Y)$ の確率は、

$$\begin{aligned} P(X \cap Y) &= P_3 \cdot P_{6-3+1} \\ &= P_3 \cdot P_4 \\ &= \frac{3}{4} \cdot \frac{5}{8} \\ &= \frac{15}{32} \end{aligned}$$

である。よって、求める確率は

$$P_X(Y) = \frac{P(X \cap Y)}{P(X)} = \frac{\frac{15}{32}}{\frac{21}{32}} = \frac{5}{7}$$

となる。

(4)

1日目から n 日目までに提供される定食の可能な組合せのうち、 n 日目がB定食であるものの総数を b_n とおく。 a_{n+1} は n 日目がA定食であるものの総数 a_n とB定食であるものの総数 b_n の和で表される。また b_{n+1} は n 日目がA定食であるものの総数 a_n に等しい。よって、

$$\begin{cases} a_{n+1} = a_n + b_n \\ b_{n+1} = a_n \end{cases}$$

となる。したがって、

$$a_{n+2} = a_{n+1} + b_{n+1} = a_{n+1} + a_n$$

となる。 $a_1=1, b_1=0$ より、 $a_2 = a_1 + b_1 = 1$ となるから、

$$\begin{aligned} a_3 &= a_2 + a_1 = 1 + 1 = 2 \\ a_4 &= a_3 + a_2 = 2 + 1 = 3 \\ a_5 &= a_4 + a_3 = 3 + 2 = 5 \end{aligned}$$

となる。また、1日目から10日目までで提供される定食の組み合わせの総数は、

$$a_{10} + b_{10} = a_{11}$$

となるから、

$$\begin{aligned} a_6 &= a_5 + a_4 = 5 + 3 = 8 \\ a_7 &= a_6 + a_5 = 8 + 5 = 13 \\ a_8 &= a_7 + a_6 = 13 + 8 = 21 \\ a_9 &= a_8 + a_7 = 21 + 13 = 34 \\ a_{10} &= a_9 + a_8 = 34 + 21 = 55 \\ a_{11} &= a_{10} + a_9 = 55 + 34 = 89 \end{aligned}$$

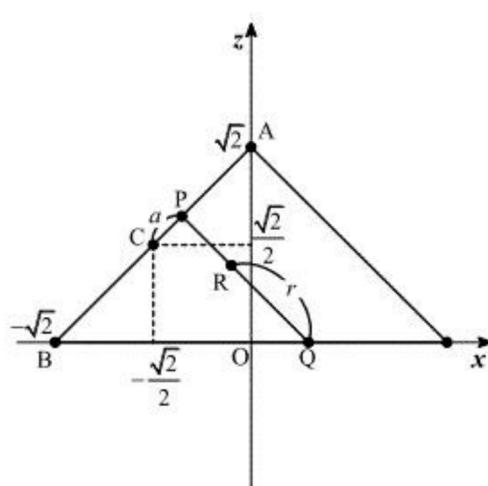
より、89である。

【解答】

(1)	ノ	ハ	ヒ		
	4	3	2		
(2)	フ	ヘ	ホ		
	1	2	6		
(3)	マ	ミ	ム	メ	モ
	4	9	2	2	3

【解説】

(1)



平面 $y=0$ で切断した切断面は上の図のようになる。点 C は線分 AB の中点だから、その座標は $\left(-\frac{\sqrt{2}}{2}, 0, \frac{\sqrt{2}}{2}\right)$ である。よって、 $CA=1$ であるから $0 \leq a \leq 1$ であり、点 P の座標は

$$\left(-\sqrt{2}\left(\frac{1-a}{2}\right), 0, \sqrt{2}\left(\frac{1+a}{2}\right)\right)$$

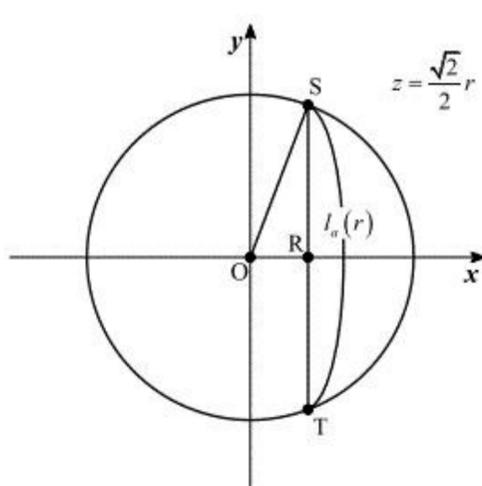
となる。点 P を通り線分 AB と垂直に交わる平面と、 x 軸の交点を点 Q とすると、点 Q の座標は

$$(\sqrt{2}a, 0, 0)$$

となる。また、線分 PQ 上を動く点 R をとり、 $QR=r$ とする。 $PQ=PB=1+a$ より、 $0 \leq r \leq 1+a$ である。点 R の座標は

$$\left(\sqrt{2}a - \frac{\sqrt{2}}{2}r, 0, \frac{\sqrt{2}}{2}r\right)$$

となる。



また、点 R を通り z 軸に垂直な平面で円錐を切断した切断面は上の図のようになる。点 R を通り y 軸と平行な直線と円錐の側面との交点をそれぞれ S, T とおき、 $l_a(r)$ を線分 ST の長さとする。

$OS=OT=\sqrt{2}-\frac{\sqrt{2}}{2}r$ となるから、三平方の定理より、

$$l_a(r) = 2\sqrt{\left(\sqrt{2}-\frac{\sqrt{2}}{2}r\right)^2 - \left(\sqrt{2}a - \frac{\sqrt{2}}{2}r\right)^2} \\ = 2\sqrt{2}\sqrt{1-a}\sqrt{1+a-r}$$

となる。よって、

$$S(a) = \int_0^{1+a} l_a(r) dr$$

である。したがって、

$$S(0) = \int_0^1 l_0(r) dr \\ = \int_0^1 2\sqrt{2}\sqrt{1-r} dr \\ = 2\sqrt{2} \left[-\frac{2}{3}(1-r)^{\frac{3}{2}} \right]_0^1 \\ = \frac{4}{3}\sqrt{2}$$

である。

(2)

(1)より、

$$S(a) = \int_0^{1+a} 2\sqrt{2}\sqrt{1-a}\sqrt{1+a-r} dr \\ = 2\sqrt{2}\sqrt{1-a} \left[-\frac{2}{3}(1+a-r)^{\frac{3}{2}} \right]_0^{1+a} \\ = \frac{4}{3}\sqrt{2}(1-a)^{\frac{1}{2}}(1+a)^{\frac{3}{2}}$$

である。これを微分すると、

$$S'(a) = \frac{4\sqrt{2}}{3} \left\{ -\frac{1}{2}(1-a)^{\frac{1}{2}}(1+a)^{\frac{3}{2}} + \frac{3}{2}(1-a)^{\frac{1}{2}}(1+a)^{\frac{1}{2}} \right\} \\ = \frac{4\sqrt{2}}{3}(1-a)^{\frac{1}{2}}(1+a)^{\frac{1}{2}}(1-2a)$$

となるから、 $0 \leq a \leq 1$ より、 $S'(a)=0$ となるのは $a=\frac{1}{2}$ のときである。よって、増減表は次のようになる。

a	0	...	$\frac{1}{2}$...	1
$S'(a)$	↘	+	0	-	↘
$S(a)$		↗	最大	↘	

したがって、 $a=\frac{1}{2}$ のとき、 $S(a)$ は最大値

$$S\left(\frac{1}{2}\right) = \frac{4\sqrt{2}}{3} \left(\frac{1}{2}\right)^{\frac{1}{2}} \left(\frac{3}{2}\right)^{\frac{3}{2}} \\ = \frac{4\sqrt{2}}{3} \cdot \frac{3\sqrt{3}}{4} \\ = \sqrt{6}$$

をとる。

(3)

求める体積は

$$\int_0^1 S(a) da = \int_0^1 \frac{4\sqrt{2}}{3} (1-a)^{\frac{1}{2}} (1+a)^{\frac{3}{2}} da \\ = \frac{4\sqrt{2}}{3} \int_0^1 \sqrt{1-a^2} (1+a) da$$

となる。ここで、 $a=\sin\theta$ とおくと、 $\frac{da}{d\theta}=\cos\theta$ であり、

a	0	→	1
θ	0	→	$\frac{\pi}{2}$

であるから、

$$\int_0^1 S(a) da = \frac{4\sqrt{2}}{3} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sqrt{1-\sin^2\theta} (1+\sin\theta) \cos\theta d\theta \\ = \frac{4\sqrt{2}}{3} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos^2\theta (1+\sin\theta) d\theta \\ = \frac{4\sqrt{2}}{3} \int_0^{\frac{\pi}{2}} \left\{ \frac{1+\cos 2\theta}{2} - \cos^2\theta (\cos\theta)' \right\} d\theta \\ = \frac{4\sqrt{2}}{3} \left[\frac{1}{2}\theta + \frac{1}{4}\sin 2\theta - \frac{1}{3}\cos^3\theta \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ = \frac{4}{9}\sqrt{2} + \frac{\sqrt{2}}{3}\pi$$

となる。

【解答】

(1)	㉠	㉡	㉢	㉣
	1	2	1	2
(2)	㉤	㉥		
	2	2		
(3)	F			
(4)	㉦	㉧		
	1	6		
(5)	㉨	㉩		
	1	16		
(6)	㉪			
	1			

【解説】

(1)

点Pの座標を (x, y) とすると、 $PA = \sqrt{(x-a)^2 + (y-a)^2}$ 、 $PB = \sqrt{(x+a)^2 + (y+a)^2}$ となるから、

$$\begin{aligned}
 (PA \cdot PB)^2 &= \left(\sqrt{(x-a)^2 + (y-a)^2} \cdot \sqrt{(x+a)^2 + (y+a)^2} \right)^2 \\
 &= \{(x-a)^2 + (y-a)^2\} \{(x+a)^2 + (y+a)^2\} \\
 &= (x^2 + y^2 + 2a^2 - 2ax - 2ay)(x^2 + y^2 + 2a^2 + 2ax + 2ay) \\
 &= (x^2 + y^2 + 2a^2)^2 - (2ax + 2ay)^2 \\
 &= (x^2 + y^2)^2 + 4a^2(x^2 + y^2) + 4a^4 - \{4a^2(x^2 + y^2) + 8a^2xy\} \\
 &= (x^2 + y^2)^2 - 8a^2xy + 4a^4 \\
 &= (2-8a^2)xy + 4a^4 \quad (\because (x^2 + y^2)^2 = 2xy)
 \end{aligned}$$

である。よって $PA \cdot PB$ が x, y によらず一定となるのは、

$$\begin{aligned}
 2-8a^2 &= 0 \\
 \Leftrightarrow a &= \frac{1}{2} \quad (\because a > 0)
 \end{aligned}$$

のときであり、このとき、

$$\begin{aligned}
 PA \cdot PB &= \sqrt{4a^4} \quad (\because PA \cdot PB > 0) \\
 &= \frac{1}{2}
 \end{aligned}$$

となる。

(2)

$x = r \cos \theta$ 、 $y = r \sin \theta$ を曲線Cの式に代入すると、

$$\begin{aligned}
 (x^2 + y^2)^2 &= 2xy \\
 \Leftrightarrow (r^2)^2 &= 2r^2 \sin \theta \cos \theta \\
 \Leftrightarrow r^2 (r^2 - \sin 2\theta) &= 0
 \end{aligned}$$

となる。 $r=0$ は原点であり、これは $r^2 = \sin 2\theta$ に含まれる。したがって、求める式は $r^2 = \sin 2\theta$ となる。

(3)

方程式 $(x^2 + y^2)^2 = 2xy$ は、 x, y を入れ替えた式と同値であるから、曲線Cは直線 $x=y$ について対称である。また、これは原点 $(0, 0)$ を通る。これらを満たすCの概形は、Fである。

(4)

(2)の結果より、曲線Cの極方程式は $r^2 = \sin 2\theta$ と表されるから、この曲線が存在する範囲は $0 \leq \theta < 2\pi$ で考えると、

$$\begin{aligned}
 r^2 &\geq 0 \\
 \Leftrightarrow \sin 2\theta &\geq 0 \\
 \Leftrightarrow 0 &\leq \theta \leq \frac{\pi}{2}, \quad \pi \leq \theta \leq \frac{3\pi}{2}
 \end{aligned}$$

となる。 $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ のとき $x \geq 0$ であり、 $\pi \leq \theta \leq \frac{3\pi}{2}$ のとき $x \leq 0$ であるから、 x 座標が最大

である点を考えるとき、 $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ の範囲で考えればよい。このとき $x \geq 0$ であるから、 x^2 が

最大となる θ の値を求めればよく、

$$\begin{aligned}
 x &= r \cos \theta \\
 \Leftrightarrow x^2 &= r^2 \cos^2 \theta \\
 \Leftrightarrow x^2 &= \sin 2\theta \cos^2 \theta \\
 \Leftrightarrow x^2 &= 2 \sin \theta \cos^3 \theta
 \end{aligned}$$

より、 $f(\theta) = 2 \sin \theta \cos^3 \theta$ として、これを微分すると、

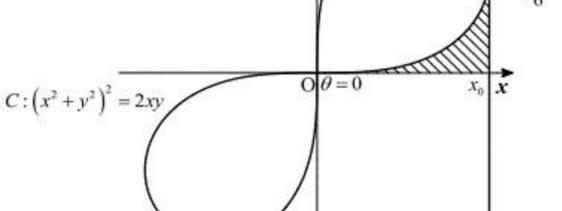
$$\begin{aligned}
 f'(\theta) &= 2 \cos^2 \theta (\cos^2 \theta - 3 \sin^2 \theta) \\
 &= 2 \cos^2 \theta (\cos \theta - \sqrt{3} \sin \theta) (\cos \theta + \sqrt{3} \sin \theta) \\
 &= 8 \cos^2 \theta \sin \left(\theta + \frac{5}{6} \pi \right) \sin \left(\theta + \frac{1}{6} \pi \right)
 \end{aligned}$$

となる。よって、増減表は次のようになる。

θ	0	...	$\frac{\pi}{6}$...	$\frac{\pi}{2}$
$f'(\theta)$	/	+	0	-	/
$f(\theta)$		↗	最大	↘	

したがって、 x 座標が最大となるのは、 $\theta = \theta_0 = \frac{\pi}{6}$ のときである。

(5)



点Mの座標を (x_0, y_0) とおく。上の図の斜線部のように、求めるのは曲線Cの $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{6}$ の部分と直線 $x = x_0$ と x 軸で囲まれた部分の面積である。これを S とすると $S = \int_0^{x_0} y dx$ である。

ここで、

$$\frac{dr^2}{d\theta} = \frac{d}{d\theta} (\sin 2\theta) = 2 \cos 2\theta \quad (\because r^2 = \sin 2\theta)$$

より、積分定数を D とすると、

$$\begin{aligned}
 \int y dx &= \int r \sin \theta \cdot \frac{dx}{d\theta} d\theta \quad (\because y = r \sin \theta) \\
 &= \int r \sin \theta \left(\frac{dr}{d\theta} \cos \theta - r \sin \theta \right) d\theta \quad (\because x = r \cos \theta) \\
 &= \int \left(\sin \theta \cos \theta \cdot r \cdot \frac{dr}{d\theta} - r^2 \sin^2 \theta \right) d\theta \\
 &= \int \left(\frac{1}{2} \sin 2\theta \cdot \frac{1}{2} \frac{dr^2}{d\theta} - r^2 \sin^2 \theta \right) d\theta \\
 &= \int \left(\frac{1}{2} \sin 2\theta \cos 2\theta - \sin 2\theta \sin^2 \theta \right) d\theta \quad (\because r^2 = \sin 2\theta) \\
 &= \int \left(\frac{1}{4} \sin 4\theta - 2 \sin^3 \theta \cos \theta \right) d\theta \\
 &= \int \left(\frac{1}{4} \sin 4\theta - 2 \sin^3 \theta (\sin \theta)' \right) d\theta \\
 &= -\frac{1}{16} \cos 4\theta - \frac{1}{2} \sin^4 \theta + D
 \end{aligned}$$

であり、

x	0	→	x_0
θ	0	→	$\frac{\pi}{6}$

となるから、

$$\begin{aligned}
 S &= \int_0^{x_0} y dx \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{6}} \left(\frac{1}{4} \sin 4\theta - 2 \sin^3 \theta \cos \theta \right) d\theta \\
 &= \left[-\frac{1}{16} \cos 4\theta - \frac{1}{2} \sin^4 \theta \right]_0^{\frac{\pi}{6}} \\
 &= \left\{ -\frac{1}{16} \cdot \left(-\frac{1}{2} \right) - \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{16} \right\} - \left\{ -\frac{1}{16} \cdot 1 - \frac{1}{2} \cdot 0 \right\} \\
 &= \frac{1}{16}
 \end{aligned}$$

となる。

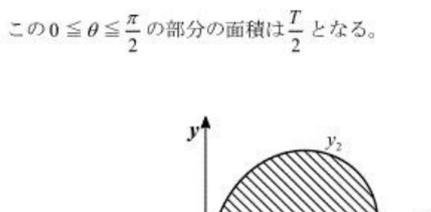
(6)

曲線Cの式の (x, y) に $(-x, -y)$ を代入すると、

$$\begin{aligned}
 \{(-x)^2 + (-y)^2\}^2 &= 2(-x) \cdot (-y) \\
 \Leftrightarrow (x^2 + y^2)^2 &= 2xy
 \end{aligned}$$

となるから、曲線Cは原点について点対称である。よって、下の図の斜線部のように、 $x \geq 0$ の部分、すなわち、曲線Cの $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ で囲まれる部分の面積について考える。求める全体

の面積を T とすると、この $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ の部分の面積は $\frac{T}{2}$ となる。



曲線Cについて、 $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{6}$ の部分 y_1 、 $\frac{\pi}{6} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$ の部分 y_2 とすると、

$$\frac{T}{2} = \int_0^{x_0} y_2 dx - \int_0^{x_0} y_1 dx$$

である。 $\int_0^{x_0} y_2 dx$ について、

x	0	→	x_0
θ	$\frac{\pi}{2}$	→	$\frac{\pi}{6}$

となるから、(5)と同様にして、

$$\begin{aligned}
 \int_0^{x_0} y_2 dx &= \int_{\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{6}} \left(\frac{1}{4} \sin 4\theta - 2 \sin^3 \theta \cos \theta \right) d\theta \\
 &= \left[-\frac{1}{16} \cos 4\theta - \frac{1}{2} \sin^4 \theta \right]_{\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{6}} \\
 &= \left\{ -\frac{1}{16} \cdot \left(-\frac{1}{2} \right) - \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{16} \right\} - \left\{ -\frac{1}{16} \cdot 1 - \frac{1}{2} \cdot 1 \right\} \\
 &= \frac{9}{16}
 \end{aligned}$$

となる。これと(5)の結果より、

$$\begin{aligned}
 \frac{T}{2} &= \frac{9}{16} - \frac{1}{16} \\
 \therefore T &= 1
 \end{aligned}$$

となるので、求める面積は1となる。